

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立南蒲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (中)・実験を行うときには「予想を立てる」「話し合いをする」「結果をまとめる」など一連の活動を行うなど、主体的に学習に取り組む態度を養うことができた。
- (高)・実験を行うにあたり、結果を自分で予想したり、友達と比べたりしながら、根拠をもって考察することで主体的に学習に取り組む態度を養うことができた。

(2) 課題

- (中)・実験結果を分かりやすく記録し、実験結果に基づいた考察を行い、学んだことを自分の生活に生かすために、ノートの活用、学習プロセスの意識化、理科学情報の提示を意図的計画的に行う。
- (高)・学習内容が理解できていない、復習をしていないことから理解の定着につなげていない。系統的に関連している内容は単元の振り返りをしてから新しい単元につなげるようにする。予想から検証方法を立案し、実験結果までを見通し、実験結果を分かりやすく記録し実験から得られた結果と予想を照らし合わせて考えられるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率 (経年比較)

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、基礎の部分では目標値に近づけているが、活用については、目標値から4ポイント下回っている。 ・「電気の通り道」に関しては目標値から8.4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、基礎・活用ともにわずかながら目標値を上回っている。 ・「光のせいしつ」に関しては6ポイント上回っている。 	/
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は目標値に対して、基礎で8.3ポイント、活用で0.7ポイント下回っている。 ・内容別正答率では「1年間の動物の成長」「物の体積と力」「水のすがた」が10ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均正答率は、目標値から9ポイントほど下回っている。 ・内容別正答率では、「物のあたたまり方」については、目標値から16ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の平均正答率は目標値に届いておらず、領域別にみると知識・技能の点数が目標点から離れてしまっている。 ・分野別にみると「風やゴムのはたらき」は、概ね目標値に近づいている。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は目標値に対して、基礎で12.7ポイント、活用で15.6ポイント下回っている。 ・内容別正答率では「流れる水のはたらき」「ふりこのきまり」「物のとけ方」が特に低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は目標値に対して、基礎で8ポイント、活用で9ポイント下回っているが、昨年度と比較すると1ポイントとわずかだが目標値に近づいている。 ・観点別でも「主体的に学習に取り組む態度」では目標値を13ポイント下回ったが、昨年度からは2ポイント改善が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は目標値に対して、基礎で9ポイント、活用で10ポイント下回っている。 ・観点別では目標値に対して「主体的に学習に取り組む態度」で15ポイント下回っている。

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 知識を身に付けることは、概ねできているが、器具を使って調べることに関して、その過程や得られた結果を分かりやすく記録することが困難なことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題発見と解決の過程で、差異や共通点に目を向けて、問題を見出すことはできているが、根拠のある予想や仮説を立て、解決すべき問題を自ら見出したり、得られた結果を基に考察したりすることが困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> 事物・現象に関して、すすんで他者と関わりながら問題解決を図る過程において、学んだことを次の学習や生活に生かそうとする意欲がなかなかもてないことがある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ノートなどを見ていると学習内容が間違いなく書けているが、なかなか知識として定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想・計画・実験・結果・考察と実験のたびに考えさせているが、まだ成果が数字となって表れていない。継続したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの生活と学習としての理科とが十分結びついていない。関連させた導入をさらに取り入れたい。

3 授業改善のポイント (観点別) 【◎は重点項目】

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 文章による説明のほか、簡単な絵・図やグラフを使って分かりやすく表現することができるようにする。そのために、友達のノートを参考にさせて、適切な表現方法の習熟化を図る。 器具と名称・使う目的を捉えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に示されている問題解決の力のみならず、問題発見→予想→観察・実験→考察・表現という、一連の過程を常に意識させ、学習のプロセスが自然に身に付けられるようにする。 自らの予想を明らかにし、観察、実験結果を見通すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校内や自分が住む地域内で容易に観察できる自然現象や生き物について、年間を通して継続的に目を向けようとする姿勢を身に付けさせる。そのために、教師が、日ごろから、理科学習に関連性のある近隣情報を紹介して、興味・関心をもたせる。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象の性質や規則性などを把握する。 観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録できるようにする。 器具の操作の意味を捉えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを、記述で答えたり説明したりできるよう、ノート指導やプレテスト等で学習内容の定着を確認していく。 観察、実験結果から、結果の見通し、予想を振り返ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎生活に根ざした学習内容や、体験的に学ぶ活動をしっかりと計画・準備し、興味や関心を喚起し学習内容の定着につなげる。 得られた観察・実験の結果を基に考察する活動、結論を導く活動を充実・工夫する。